

4/29 第14回
臨時大会

みなぎる決意で闘う方針決定

スト権投票
100%で確立

日刊 動労千葉

1988.5.6
No.2008

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

四月二十九日の第十四回臨時大会は、代議員・傍聴者一八五名が労働者福祉センターの会場をうずめつくし、熱気と決意みなぎる中、満場一致で闘う方針を決定した。スト権確立のための一票投票は、実に四二名代議員全員、一〇〇%の賛成となつてその決意の固さを立証した。一票投票の発表がなされるや、会場は「ヨーン」「やるぞ」といった声援と拍手に包まれた。全組合員はただちに職場討議・集会を通し全体の一致団結体制をうち固めよう。五・六月総決起・総行動へ！

吉野（検査・修分科、亀戸ミルクS）、
関（津田沼支部、小岩ミルクS）両代
議員を議長団に選出

議長団には、当局の不当配転でミルクスタンドに送りこまれ、不屈に闘いぬいている吉野、関両氏が選出された。

最初に、中野委員長があいさつにたち、この間の組合員の奮闘をたたえ評価したのち、声を大にして「当局・革マルの『無理を通せば道理が引つこむ』といった常軌を逸したやり方をこれ以上黙過できない。彼らは危機だからこそ目茶苦茶なやり方に出てきている。原点にたつて反撃にたとう」ときつぱりと宣言した。

布施書記長
五・六月闘争について提起

書記長は、解雇者・清算事業団の仲間の怒りを受けとめ、腹をすえ、五・六月闘争に決起するよう訴え、闘いの方向性を鮮明に打ち出した。

闘いの目標

- ① 原職奪還の闘いの前進をつくる。
- ② 当局・革マル一体の組織破壊を粉碎し、組織強化・拡大をはかる。
- ③ 全国の職場・生産点の闘いと連帯し、動労革マル鉄道労連解体・一掃にむけ闘う。
- ④ 強制出向阻止、「兼務外し」・強制配転阻止、不当処分撤回、不当労働行為糾弾をおしすすめる。



100%の賛成でスト権を確立した一票投票

- ― 戦略・戦術（概要） ―
- ① 営業を中心とする長期スト
 - ② 全支部・全職場がいつ・どこからでもストに入れる体制の確立、不当弾圧・介入には戦術拡大で闘う。
 - ③ 第三者機関（地労委など）の場でも闘う。
 - ④ 大宣伝戦を展開する。
 - ⑤ 営業協議会を結成する。
 - ⑥ 夏季物販・全国オルグを総決起行動の一環として闘う。

以上が決定された。

ストライキには解雇者（争議団）も
駆けつける！（綾部代議員）

質疑応答では、被解雇者を代表しての綾部氏をはじめ八名の代議員が、方針に賛成の立場にたつて次々と発言した。

発言のたびに、会場の各所から「ヨーン」「やるぞ」といった声があがり、いよいよ怒りをときはなち、暗雲を吹きとばす！ という気運がみながっている様子を物語っていた。

中野委員長は、こうした全体の状況を把握し、討論のまとめの中で冒頭「動労千葉は断固やっつけける確信を深めた」と言いきり、「誰しも弱いところはある、そうした気持を克服しみなで闘ってきた。犠牲を払いはりながらも、胸をはってやっつけられる職場・組織を持っている、解雇者・清算事業団の仲間の苦闘をわがものとし、彼らととりもどすためにも『本隊』の決起が不可欠である。われわれの決起は全国で不屈にふんばっている無数の仲間に影響を与えずにはおかない。

会社当局対個人の関係をぶち破るためにも、ここで組織をあげ総決起する。自分のため、職場のため、家族のために腹をすえ、仲間を信じてたちあがる」と三〇分間にわたって力説された。

参加者の中には「これで目からウロコがとれた」「ストはまず俺のところから」といった会話が随所で行われるなど、五・六月闘争はすでに胎動を開始した。

全組合員は満を持して反撃へ！